

## 2021 年一宮教会待降節黙想会資料

### ともに歩む教会のため——交わり、参加、そして宣教

1962 年から 1965 年に開催された第二バチカン公会議はカトリック教会の窓を広く開け、世界の諸民族、諸文化、諸宗教の人との対話と共生の道を歩み始めました。

この第二バチカン公会議をきっかけに、教皇パウロ 6 世は、世界の各地から選出された、代表者の司教が集まって会議を開き、現代社会の中で教会が考えていかなければならない事柄を話し合う会議を開くことを決めました。この会議を世界代表司教会議（シノドス）と言います。

本来、シノドスは教皇と司教が話し合う会議ですが、2018 年 10 月に開催された第 15 回通常総会「若者、信仰そして召命の識別」では、会議場に青年を招き、青年たちの声に耳を傾けるという全く新しい試みがなされました。

2021 年 10 月 10 日に第 16 回通常総会「ともに歩む教会のため——交わり、参加、そして宣教」のシノドスの開催ミサがバチカンで行われました。教皇フランシスコは、「形式や飾りではなく、ありのままイエスと会うなら、全てが変わるだろう」とし、世界のすべてのカトリック教会が「出会いの場」になるよう呼びかけました。

今回のシノドスはカトリック信者全員参加型のシノドスということが出来ます。準備文書によれば、2021 年 10 月から約 2 年間をかけて質問に答える形で準備を進めることになっています。

先日カトリック名古屋教区にも「質問書」が送付され、教区内のさまざまなレベルで、10 項目の質問に回答することが求められています。今年の、待降節の黙想会は講話をするのではなく、準備文書の 10 項目の質問について解説をします。回答は、メール、或いはファックスで教会事務局までお願いします。

質問の中で意見表明をしたいと思うものだけに回答していただいても結構です。また、匿名で構いません。皆さんから寄せられた回答をまとめ、教区に提出する予定です。回答は 12 月末までにお寄せください。

10 の質問は、「ともに歩む」とはどういうことかを明らかにするものです。

回答は、例えば 1 から 10 までの質問番号を先ず書き入れ、自由な形でお答え下さい。①②などの数字の部分は自分の意見をまとめやすくするためのヒントなので、その一つ一つにこだわる必要はありません。

回答例：2 真剣に耳を傾ける。傾聴の必要性はよく言われるが、ひとの話を理解的態度で聴くことは難しい。相手の話の腰を折らずに最後まで聴くことを心がけたい。

## シノドスの課題質問

### 1. 一緒に歩んでいる人たち

教会と社会で、私たちは同じ道を並びながら歩いています。

- ① 私たちは一緒に歩んでいるのでしょうか？
- ② 私たちは誰と歩まなければいけないのでしょうか？
- ③ 一緒に歩むことを怠っていたり、忘れていたり、見捨てている人たちはいませんか？
- ④ とともに歩むことができていない人たちとは誰ですか？ どうしてともに歩むことができないのでしょうか？
- ⑤ 一緒に歩んでもらっていますか？一緒に歩んでもらうためにはどうしたらいいと考えますか？

### 2. 真剣に耳を傾ける

傾聴は最初の一步ですが、そのためには、偏見のない、開かれた精神と心が求められます。

- ① 時として私たちが知らない声を通して、神は語りかけています。私たちは誰に耳を傾けていますか？
- ② 私たちが耳を傾けていない人がいますか？  
例：女性、若者、小さな人々、隣人、意見が異なる人、貧困者、周辺に追いやられている人、排除されている人、難民など。
- ③ どうしてそのような人々に耳を傾けることができていないのでしょうか？
- ④ どうしたらその人々に耳を傾けることができるのでしょうか？
- ⑤ 私たちの声には耳を傾けてもらっていますか？
- ⑥ 私たちの声をどうしたら聴いてもらえると考えますか？

### 3. 自分の考えをはっきり声に出す。

すべての人は、勇気をもって、気兼ねなく、自由に、真実を、愛を持って話すよう招かれています。

- ① 私たちは自分の信仰をはっきりと表明していますか？表明できていないとすれば、どうしてですか？
- ② 教会の中でも社会においても、勇気をもって、率直に、責任をもってはっきり述べる場や機会がありますか？ないとすれば、なぜでしょうか？
- ③ 福音宣教に役に立つ手段を積極的に利用していますか？  
例：印刷物、書籍、テレビ、ラジオ、SNS、インターネットなど。
- ④ 福音宣教についてのアイデアはありませんか？

### 4. 典礼

「ともに歩む」ことは、ともにみことばに耳を傾け、感謝の祭儀を行うことに基づいている場合に、はじめて可能になります。

- ① ミサや典礼は私たちや私たちの生活を生かすものになっていますか？それはどうしてですか？

- ② それを生かすためにはどうしようと思いますか？
- ③ どのような参加の仕方がいいと思いますか？
- ④ 私たちは皆一緒に祈っていますか？
- ⑤ 朗読や祭壇の奉仕をするとき心がけていることは何でしょうか？

## 5. 私たちの共通の使命（宣教）に対する共同責任

「ともに歩む」ことは、すべての人が参加するよう招かれている、教会の使命（宣教）とともに奉仕することです。

- ① すべてのキリスト者は福音宣教者であることを自覚しているでしょうか？
- ② 誰に対して福音を伝えようとしているでしょうか？あるいは、誰に対して伝えないといけませんか？
- ③ 宣教をなおざりにしている分野あるいは領域がありますか？
- ④ 信者が活発に宣教しようとするのを妨げるものは何でしょうか？
- ⑤ 福音宣教を誰かに任せきりにしていませんか？ともに福音宣教を行おうとしていますか？どうしたらともに福音を伝えることができると考えますか？
- ⑥ どのような形ややり方（社会福祉、政治活動、科学的探究、教育、社会正義の促進、人権擁護、環境保全など）で福音を伝えていますか？あるいは、伝えようと思いますか？
- ⑦ 教会共同体は、さまざまな方法で社会に奉仕する信者をどのように支援しているでしょうか？

## 6. 教会と社会における対話

対話のためには根気強さと忍耐を必要としますが、対話は相互の理解を可能にします。

- ① 意見が違う人たち、違う信仰の人たちとも対話を行っていますか？彼らと対話をしよう、関わろうとしていますか？
- ② 私たちの教会で何が対話の場や手段になっているでしょうか？
- ③ 私たちは、近隣の小教区、地域内の修道院、信徒の団体や運動体などとの協働をどのように推進しているでしょうか？
- ④ 教会と社会の中で、私たちが特に注意を向けている問題は何でしょうか？
- ⑤ 私たちは、ほかの諸宗教の信者や、特に宗教を信奉していない人々と、どのような対話や協働の体験をしているでしょうか？
- ⑥ 教会は、社会のほかの分野（政治、経済、文化、市民社会、貧困生活）の人々とどのように対話をし、何を学んでいるでしょうか？

## 7. エキュメニズム（教会一致）

洗礼によって一つに結ばれ、異なる信仰告白をするキリスト信者の間の対話は、シノドスに向かう歩みの中で特別な位置を占めています。

- ① 特にカトリック以外のキリスト者とも祈り合い、分かち合い、ともに歩んでいますか？
- ② とともに歩むためにどうしようと思いますか？
- ③ とともに歩むことからどのような実りを得ているでしょうか？

- ④ 互いにともに前進するとき、次のステップをどのように踏めばいいでしょうか？

## 8. 権威と参加

ともに歩む教会は、参加し、共同責任を担う教会です。

- ① 自分たちの教区の目標を知っていますか？
- ② その目標のために具体的な協力ができていますか？その目標に向けてともに動いていますか？どうしたらともに動けますか？
- ③ 会議で教会行事の実施担当者を決めるだけでなく、福音宣教をどうようにしようかなどについての分かち合いはなされていますか？
- ④ 私は自分の意見を述べていますか？私の意見は聴いてもらえていますか？
- ⑤ 信徒の奉仕と責任は、特に女性の場合、どのように促進されているのでしょうか？
- ⑥ 教区の組織体（小教区評議会、教区評議会、司祭評議会など）は「ともに歩む」ように機能しているのでしょうか？
- ⑦ 教会が「ともに歩む」ために、どのような参加やリーダーシップが望ましいでしょうか？
- ⑧ 教区のレベルで、「ともに歩む」という体験をしたことがありますか？

## 9. 識別と決定

私たちは、「ともに歩む」仕方で、聖霊が私たちの共同体全体を通して言っていることを識別することによって意志決定をします。

- ① 祈りと聖書朗読から会議を始め、みことばに従って会議を行い、行動に移しているでしょうか？
- ② 主がともにおられ、聖霊が導いておられることを意識しながら行動しているでしょうか？
- ③ 私たちは、位階的な教会（教皇・司教・司祭・修道者・信徒）の中で、意志決定にどのように参加しているのでしょうか？
- ④ 私たちの意志決定方法は、神の民全体に耳を傾けることから始めているのでしょうか？
- ⑤ 意見を言うよう求められること（諮問）と意志決定との関係はどうでしょうか？その関係をどのように実践しているのでしょうか？
- ⑥ 私たちは、重大な事柄について透明性と説明義務を促進するためにどのような手段と手続きを用いているのでしょうか？
- ⑦ 共同で霊的識別ができるようになるためにどうすればいいのでしょうか？

## 10. 「ともに歩む」中で私たち自身が養成されます。

「ともに歩む」ことは、人間およびキリスト者、家族、地域社会の変革、養成、そして生涯学習を受け入れることでもあります。

- ① 宣教・典礼・様々な問題・教会活動などにおいて、ともに歩むことを意識し実際に行動していくためにはどうしたらいいと考えますか？
- ② 識別を促し、「ともに歩む」方法で権威を行使することを推進するために、どのような養成が行われているのでしょうか？